

トホクのエダマメ栽培方法

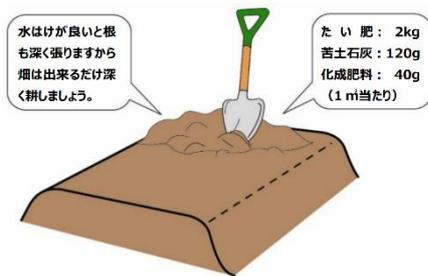
発芽適温：20～30℃ 生育適温：20～30℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；3～4年あける

1. 作物特性

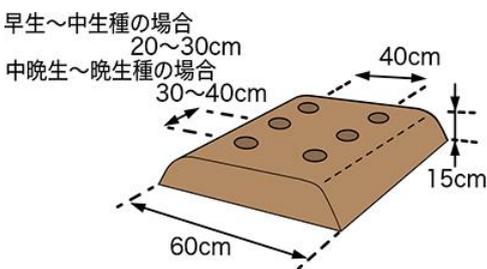
エダマメには熟期の違いから極早生種から晩生種まであります。通常7月初旬からの収穫を目指し、極早生種(80日タイプ)、早生種(85日タイプ)、中早生種(90日タイプ)の順に4～5月からタネをまき始め、5～6月に中生種(95日タイプ)を、6月中旬以降に最後の晩生種(100日タイプ)をまけば9月のお彼岸過ぎまで連続して収穫を楽しめます。また最近話題の茶マメや黒マメ品種などの味の違いも楽しみのひとつです。エダマメ栽培で注意しなくてはいけないのは、肥料が多すぎて株を茂らせ過ぎて莢付きを悪くすることです。晩生種を早い時期にタネまきした場合も莖葉だけが成長して着莢不良となりますから注意が必要です。

2. タネまき

エダマメは連作すると生育が劣ります。なるべくならマメ類を3～4年栽培していない畑を選びます。



深さ1cm程度に1カ所数粒ずつタネをまき、発芽したら早めに間引いて生育の良いものを1～2株残します。



畑に直接タネをまく場合は、鳥の食害を防ぐために防鳥資材を近くに設置しましょう。

エダマメはタネをまいた直後に大雨が降る場合や、水をやり過ぎて過湿になると発芽不良になる可能性があります。これは乾燥したタネが多量の水分を一気に吸収することによって急激な膨潤肥大に耐えられずに起こる現象です。対策として数日間は雨の降らない日を選び、タネをまく1日前に畑に充分水をやっておき、タネまき当日から数日間は水をやらずに、土の表面が乾いてきたら水をやるようにします。



3. 栽培管理

一般的にエダマメは追肥の必要はありません。途中除草を兼ねて土寄せを行います。土寄せは間引き後と草丈が約30cmになった頃の2回位行くと倒伏も防止できます。なお中生品種や晩生品種で莖葉の勢いが極端に悪い場合には株元に1㎡あたり20gの化成肥料の追肥を行います。



早生～中生の品種は草丈もそう高くなりませんし、脇からの枝の発生も強くないので摘芯は不要ですが、晩生種に関しては5～7節目で摘芯します(写真の指先部分)。摘芯によって草丈が抑えられて脇からの枝の伸びも良くなり、莢付きが揃って収量も向上します。

開花期以降に気温が高い日が続く畑も乾燥する場合、花が落ち収量が減少します。朝夕の涼しい時間にかん水します。またエダマメ栽培で大きな被害を出す害虫はカメムシです。農薬などを適切に使って防除しましょう。



4. 収穫

莢の中の実が膨らんでいることを確認して収穫しましょう。エダマメは株の下の方から熟していき、上の方の莢はまだ充分大きくなっていないこともあります。適当な莢を選んで摘んでいくのも良いでしょう。



●栽培例 ●まく時期 ●収穫時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地					●	●	●	●	●			
中間地				●	●	●	●	●	●			
暖地				●	●	●	●	●	●	●		